

北海道浮魚ニュース

令和2(2020)年度6号

2020年6月26日

道総研 函館水産試験場

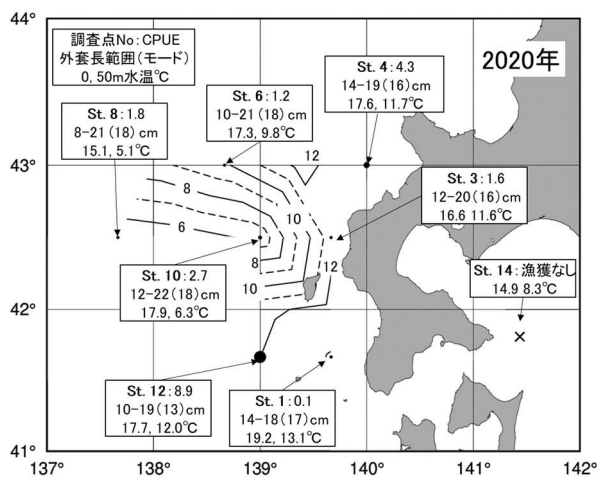
ホームページ: <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

6月15日～23日の期間、北海道渡島大島周辺から岩内沖にかけての日本海および恵山沖の道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は昨年及び過去5年平均を下回った。
- ・スルメイカのサイズは昨年と同じもしくは小さめで、過去5年平均より小型でした。

1. 水温分布(図1)



漁獲調査点8点の表面水温は15.1～19.2°C(昨年13.1～17.4°C)、深度50m層の水温は5.1～13.1°C(昨年4.0～11.8°C)でした。

深度50m層の水温は昨年に比べてSt.8を除く各点で高い水温でした。

10°C以上の水温帯は岩内湾沖合および北緯42°以南に広がり、瀬棚沖には冷たい海水が張り出していました。

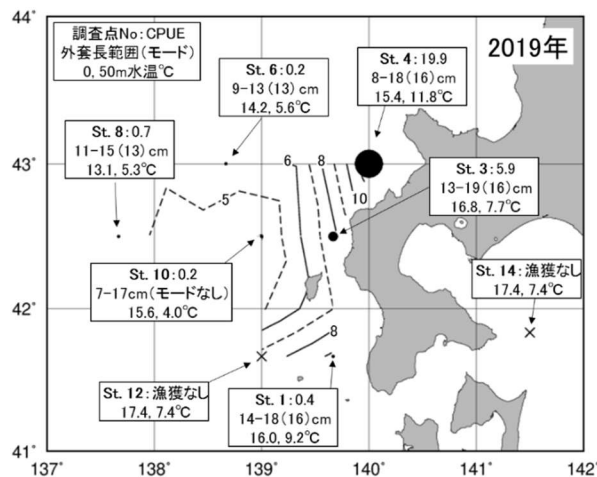


図1 スルメイカ漁獲調査結果、●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例(1以下は同じ大きさ)。×は漁獲なし。等温線は深度50mの水温(°C)

2. 流向流速分布（図2）

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における流向流速と水温分布と照らし合わせると、対馬暖流は奥尻島西方から等温線に沿って北上していると考えられました。瀬棚付近から南では岸沿いに南に向かう流れが、瀬棚付近から北では沖に向かう流れが見られました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou/>

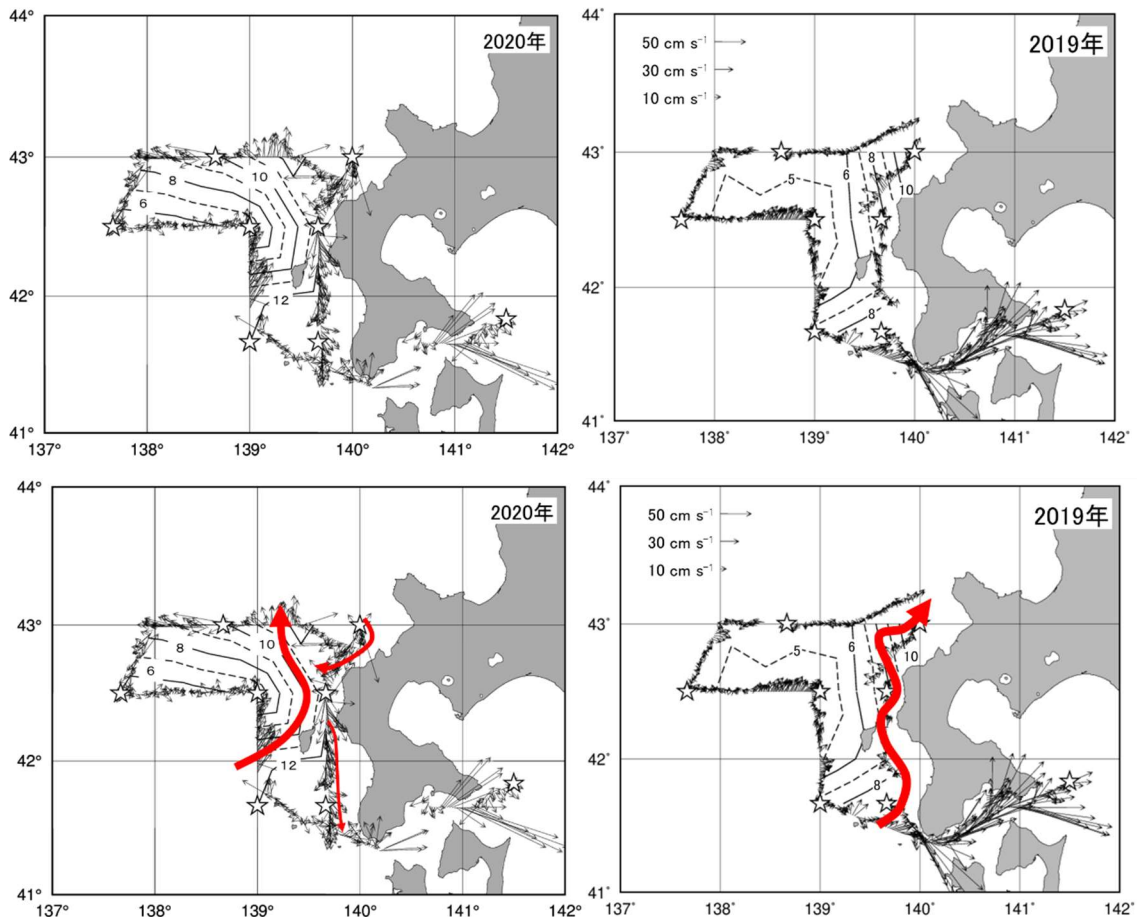


図2 2020年と2019年の深度50mにおける流向流速（上段）と対馬暖流の模式図（下段）。等温線は深度50mの水温。☆は漁獲調査点。

3. スルメイカの分布密度（図1、表1）

日本海の漁獲調査点7点のCPUE（2連式イカ釣り機1台1時間当たりの漁獲尾数）は0.1～8.9（昨年6地点0～19.9）の範囲で、最もCPUEが高かったのは渡島大島西方のSt.12（8.9）でした。次にCPUEが高かったのは岩内沖のSt.4（4.3）で、St.6,8,10,12の調査点で1をこえて、昨年を上回りましたが、St.1,3,4の3地点で昨年を下回りました。前年に最もCPUEが高かったのは、岩内沖のSt.4（19.9）でした。漁獲調査を行った7地点の平均CPUEは2.9で前年の平均（3.9）及び過去5年の平均（13.7）を下回りました。

表 1 2015年～2020年の6月漁場一斉調査での、日本海7調査点の地点別 CPUE (尾/1台1時間) 及び過去5年平均。

調査点	北緯	東経	概要	2015	2016	2017	2018	2019	2020	過去5年
St.1	41-40	139-40	上ノ国沖	4.7	7.2	2.0	4.9	0.4	0.1	3.8
St.3	42-30	139-40	瀬棚沿岸	20.8	12.6	7.7	94.5	5.9	1.6	28.3
St.4	43-00	140-00	岩内沖	--	8.5	24.1	3.1	19.9	4.3	13.9
St.6	43-00	138-40	泊西方沖	--	5.7	35.9	7.5	0.2	1.2	12.3
St.8	42-30	137-40	檜山西方沖	--	--	0.2	3.8	0.7	1.8	1.6
St.10	42-30	139-00	奥尻島北西沖	--	25.6	6.8	5.9	0.2	2.7	9.6
St.12	41-40	139-00	渡島大島西方	16.9	47.4	8.2	22.8	0.0	8.9	19.0
平均CPUE				14.1	17.8	12.1	20.4	3.9	2.9	13.7

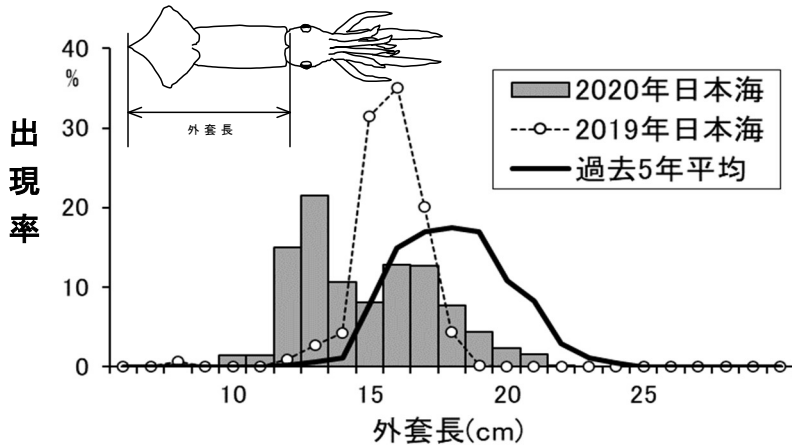


図 3 日本海スルメイカの外套長組成

4. スルメイカの大きさ (図1、図3)

日本海側7調査点のスルメイカ外套長(胴長)の出現範囲は8~22cm(昨年7~19cm)でした。出現したイカの大きさ(モード)は13cmと16~17cmに現れました(昨年16cm)。大きさは前年とほぼ同様もしくは小型となり、過去5年平均よりも小型でした。最も多く出現した13cmのモードは主に渡島大島西方のSt.12で現れ、残る6調査点では16~17cmのモードが主体でした。

5. 標識放流 (図4)

調査期間中、日本海の2調査点で合計291尾の標識放流を行いました(図4)。放流したイカにはヒレの付け根部分に、黄色の標識タグが打たれています。

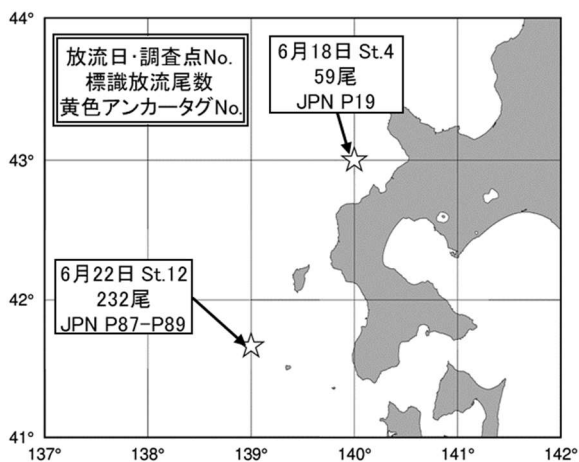


図 4 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識番号

日本海では日本海区水産研究所の漁場一斉調査の一環として、他府県の機関でも同じタグを使用した標識放流が実施されています。標識のついたスルメイカを発見した方は、最寄りの水産試験場までご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

(函館水産試験場調査研究部

TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)